

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	18	課題区分	C	令和4年(2022年)3月31日	
横断的な課題	1地域資源の活用・磨き上げによる観光振興【観光地域づくり】						
地域重点政策	3地域の強みを生かし健康をテーマとした観光地域づくり					上田地域振興局	
実施機関	上田地域振興局			担当課	所属	商工観光課	
事業名	冬の事業所等におけるコロナ感染防止対策事業				電話	0268-25-7140	
				E-mail	uedachi-shokan@pref.nagano.lg.jp		
事業の概要等	目的 (目指す姿)	冬の観光地における新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、宿泊施設、スキー場等の事業所における感染防止対策を講じる。					
	現状と課題	上田地域においては新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、8月、9月には感染警戒レベルが5(特別警戒Ⅱ)に引き上げられたが、その後感染者数は減少に転じ、10月19日に感染警戒レベルは1に引き下げられ、徐々に落ち着きを取り戻しつつある。しかしながら、今後冬のシーズンを迎えるにあたり、これまでの感染状況等を参考にすると、冬期において感染者数が増加傾向にあること、ブレークスルー感染が確認されていることから、ワクチン接種率に関わらず、感染防止対策の徹底が必要である。さらに昨年度においては、他圏域のスキー場において従業員の感染が確認された事例もあることから、冬期に多くの人を訪れるスキー場等の観光関連施設において、感染対策の徹底を呼びかける必要がある。					
概要等	内容 (変更後の内容)	<p>冬季の観光地等における新型コロナ感染拡大を防止するため、以下の事業を実施することで、事業所従業員および観光客の感染防止に対する意識向上を図るほか、事業所等における室内の換気状況の改善に役立てる。</p> <p>(1)感染予防啓発(一部観光部配当予算で実施) 感染防止対策の徹底を呼びかけるのぼり旗、ステッカー及びチラシ入りマスクを作成し、のぼり旗及びステッカーについてはスキー場に設置するほか、チラシ入りマスクについては、管内宿泊事業者等を通じて観光客に配布する。また、飲食店においても啓発を行い感染防止対策を徹底するため、チラシ入りマスクと組立式ポップを製作し配布する。</p> <p>(2)感染拡大防止対策 ハンディ型二酸化炭素濃度計を配備し、スキー場パトロールや飲食店の巡回啓発の際に活用するほか、市町村、商店街組合、観光協会等に貸出しを行い、感染防止に活用する。</p>					
	事業期間	R3年(2021年)10月		～	R4年(2022年)3月		
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考			
	感染予防啓発	のぼり旗の作成		19,720	ボール1セット(6本)×6セット ※旗の印刷は観光部予算を活用		
		マスクの作成及び配布		606,749	マスク(旅のすゝめ)×25,000枚=410,300円 マスク(食のすゝめ)×10,000枚=183,700円 郵送料×19先=12,749円		
		ステッカーの作成		36,300	ステッカー×60枚=36,300円		
		ポップの作成		105,600	組立式ポップ×6,000枚=105,600円		
	感染拡大防止対策	二酸化炭素濃度計の配備		52,800	二酸化炭素濃度計 1台		
合計			821,169				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	冬期における宿泊施設、索道事業施設における新型コロナウイルス感染症のクラスター発生件数		0件	0件	○ 達成		
	二酸化炭素濃度計による測定箇所		15箇所以上	6箇所	● 一部達成 ○ 未達成		
事業実績・成果	<p>「新たな旅のすゝめ」チラシ入りマスクを管内観光協会、旅館組合、索道事業者等を通じて観光客に配付し、「新たな食のすゝめ」チラシ入りマスク及びポップは商工会等を通じてのほか、管内飲食店へ直接配布を行った。スキー場リフト搭乗中のマスク着用を呼びかけるステッカーは索道事業者に配付し、スキー場リフト乗り場、リフト券売りに掲示した。感染対策を呼びかけるのぼり旗(旗の作成は観光部予算)は観光協会および索道事業者に配布し、スキー場をはじめとした観光施設で掲出した。</p> <p>二酸化炭素濃度計はスキー場パトロールにおいて使用し、換気状況の確認および感染対策の指導に役立てることができた。冬の期間において、宿泊施設および索道関連施設での新型コロナウイルス感染症のクラスター発生件数は0件であり、これら啓発グッズの配布や掲出等を通じて、観光客および施設従業員の感染対策への意識向上に繋がったことが1つの要因となったと考える。</p>						
今後の方向性	のぼり旗の掲出等による、観光客および施設従業員の感染対策への意識向上に向けた啓発を引き続き行う。						